
愛犬と夏

間

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛犬と夏

【Nコード】

N7149M

【作者名】

間

【あらすじ】

日常風景断片。犬を可愛がるだけの小話です。

思い切り指をたてて耳の後ろをかいてやると、気持ちいいらしく
どんどん頭がかたむいてきた。

最終的に私の左手に頭を乗せるような形でろりと転がってしまった駄犬に笑って、「暑苦しいぞ、この毛玉め」とさらにわしゃわしゃしてやる。

夏の夜のおいがする。リリリと夜の虫が鳴きはじめる。

網戸にくつつくように二人たたみに寝そべって、あついあついくつつきあうのは、バカみたいでちょっと楽しい。

ガリガリガリと深い毛皮を思い切りかきむしってやると、コタはうつとりした顔をする。昔近所の男の子が、「うちの犬は嬉しすぎるとションベンもらすんだよ」と言っていたのを思い出した。つまりそれほどでろでろにとけきった可愛い阿呆面だったってことだ。

毛がわさわさ抜けるのに暑苦しさが増して、このとろけた顔を離すのはちよつともったいないな、とか思いながら起き上る。シャツが汗ではりついて気持ち悪い。が、それよりもまずはこの毛をゴミ袋に入れないといけないだろう。

「綿代わりにしてぬいぐるみでも作ってやろうか」

ムツゴロウさんみたいな声色で罵倒して、ぐりぐりと眉間を押して離す。

とたんに、交代！ とばかりに大きいバカ犬は勢いよく私の顔を舐めてきた。

「あつ、コタ、暑苦しい！」

分厚い舌に唾液まみれにされて、汗とまじりあって不快指数が増す。

べろべろ喉元を執拗に舐めるくせは、もしかして顔中見境なく舐

めまわすのを嫌がった私のせいだろうか。顔に近いから首から胸、脇って、そのチョイスもなんとなく問題がある気がするが。特に脇はくすぐったくてダメだ。

「あーあ。風呂入りなおさなきゃ」

私の汗がそんなにうまいか。と言ってみると、勢いがよすぎる舌が口内に突っ込んできたので耳を引っ張ってやった。キャンと情けない声をあげたが、すぐにまたひっついてくる。実に暑苦しい。

「くそう。こうなったらお前の毛抜きまくって一回り小さくしてやるぞこのアホ犬め！」

「わふん」

よーしよしよしよしかわいいなーこのアホ！

犬撫で声をあげながら抱きつくと、コタは嬉しそうに腹を見せてひっくり返った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7149m/>

愛犬と夏

2010年10月28日07時42分発行